

年 長 児 保 育 案

うみ組 男児18名 女児16名 計34名
保育者 西 あさ子 鳩宿 恵理香

1 幼児の実態

子どもたちは、「人」「もの」「自然」といった様々な環境とかかわりながら、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じながら生活している。友だちと協力しながら遊びを工夫することで、新たな発見やアイデアを見だし遊びが深まる楽しさを味わってきている。互いの伝え合いの中で、相手の気持ちに寄り添いながら話をする、相手の話をじっくりと聞いて受け止めることの大切さに気づき、少しずつではあるが気持ちのすれ違いも減ってきている。また、行事を通して園全体の中心となって活動することの楽しさに気づき、年下の友だちに優しく教えたり、リードしたりすることで年長児としての自覚も一層高まってきている。

園庭では、竹馬や鬼ごっこ、鉄棒、縄跳び、ボール遊びなどを楽しんでおり、ルールを理解して遊ぶことの楽しさや面白さを味わっている。また、この時期ならではの水や風の冷たさや、吐く息が白くなる不思議さを感じ気付いたことを友だち同士で話したりしている。ヒヤシンスや大根、にんじんの成長にも気づき、「大きくなあれ」と言葉を掛けたり、成長の様子を自分なりの言葉で友だちや保育者に伝えたり、水掛けしたりしている姿から、成長への期待が高まっていることがうかがえる。

室内では、牛乳パックや空き箱、ロールペーパー芯、毛糸などのいろいろな素材を使って製作を楽しむ姿が見られ、自分なりのイメージをもち、色や形にこだわって工夫してつくっている。また、室内に置いてある人形やままごと道具を使って自分たちで話し合いながら役柄を決めてごっこ遊びを展開したり、自分たちが経験したことのあるお店屋さんを開いて、年下の友だちを招待するなどして、イメージした世界を友だちと共有しながら遊ぼうとする姿が見られる。

このように子どもたちは、友だちと協力したり、遊び方を共有したりしながら遊びを進める楽しさを味わい、身近にある環境に興味をもって様々なもののよさを見だし、よりよく生活をしている。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、友だちと協力したり、遊び方を共有したりして遊びを進める楽しさを味わい、身近にある環境に興味をもって、様々なもののよさを見だし、遊びを進めている。

そこで、友だちとイメージを共有しながら感じたことを自分なりの言葉で分かりやすく伝え、互いに刺激を受け合いながら遊びが発展する姿を大事にしたい。

竹馬や鬼ごっこ、鉄棒、縄跳び、ボール遊びなどで遊ぶことを通して、互いに教え合ったり励まし合ったり、ルールを理解し合ったりして遊ぶ楽しさを共有できるのではないだろうか。また、その遊びを通して、風の冷たさや体が温まる心地よさや不思議さ、面白さなどの様々な体験が期待できる。自分の経験を基に感動体験を友だちや保育者に分かりやすく伝え、感動を共有したり、疑問に思ったことを友だちや保育者と共に考え、反応が返ってくる場を大切にしながら互いの感じ方や考え方の違いの面白さに気付いていけるようにしたい。

ごっこ遊びでは、自分が今まで経験してきたことを友だちに伝え、イメージを共有しながら遊びを展開したり、年下の友だちを招待したり、相手に遊びを理解してもらうために工夫する必要がある。よって、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして遊びを展開し、意見のやりとりを通して広がる遊びとして大切にしたい。

こうした遊びは、自分の思いや考えを表現する楽しさを味わいながら、互いに伝え合う喜びを感じ、友だちや保育者に伝えたいという気持ちの高まりにもつながっていくものと考えられる。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 学級の友だちと共通の目的をもって、思い切り遊ぶ。
- 自分たちで工夫し合い、友だちとのつながりを深めながらいろいろな遊びを楽しむ。

(2) 内容

- これまでの経験を生かし、学級の友だちと協力して園生活を楽しむ。
- 自分なりの目的や見通しをもって、学級の友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 友だちと励まし合ったり、認め合ったりしながら充実感を味わう。
- 年下の友だちに親しみの気持ちをもってかかわり、優しく教えたり、リードしたりしながら一緒に遊びを楽しむ。
- 氷や霜柱などの冬の自然に触れて、その不思議さに気付き、興味をもってかかわる。
- 冬の健康な生活の仕方が分かり、手洗い、うがいや衣服の調節など進んで行く。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 友だちとごっこ遊びや鬼ごっこ、竹馬など、共通の目的をもって、イメージを共有しながら思い切り遊ぶ。
- 互いに自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを聞いたりすることで工夫し合い、遊びが発展していく過程を楽しむ。

(2) 内容

- 互いにアイデアを出し合いながら友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 竹馬などに挑戦して友だちと励まし合ったり、認め合ったりしながら充実感を味わう。
- お店屋さんごっこを通して年下の友だちに親しみの気持ちをもってかかわり、優しく教えたり、リードしたりしながら一緒に遊びを楽しむ。
- 冬の自然に触れて、その不思議さに気付き、興味をもってかかわる。

(3) 保育に当たって

ア 人とのかかわり

- 一緒に遊んでいる友だちと考えを共有し、工夫して遊ぶ姿を見守り、協力することの良さを味わえるような援助を心掛ける。
- 年下の友だちに優しく接する姿を見守り、優しく教えたり、リードしたりしながら一緒に遊ぶことへの充実感を味わえるような言葉掛けを行う。
- 降園時の活動では、友だちの話聞き、疑問に思ったことを質問できるような雰囲気づくりを心掛ける。

イ ものとのかかわり

- 子どもたちが、イメージするものを自分たちで作り出していけるような材料を十分に準備しておく。
- 道具を使った遊びを通して、互いにルールを理解して遊ぶ楽しさが味わえるように、みんなでルールを話し合いながら遊びを進めるようにする。
- 竹馬が上達するように挑戦しようとする姿を見守りながら必要に応じて補助をしたり、言葉を掛けたりしていく。

ウ 自然とのかかわり

- この時期ならではの水や風の冷たさや吐く息が白くなる不思議さに、一緒に驚いたり、遊びに取り入れたりしながら、自然の不思議さを感じ、疑問を調べていくような援助をする。
- 花や野菜の成長に気付き、開花や収穫を楽しみにできるような言葉掛けを行い、自然への関心を高めていく。

